

まちの史跡めぐり……⑧4

町文化財専門委員 石瀧 豊美

古新聞切抜帳から…(2)

=福岡日日新聞と福陵新報・九州日報=

◆ ◆ ◆

明治25年10月8日(福陵)

●田原養朴氏の眼病施療 柏屋
郡須恵村大字上須恵の田原養朴氏は、有名なる専門眼科医にして、其の施術に妙を得たるは、普く人の知る所なるが、当夏以来同地は赤痢病蔓延の兆ありしを以て、衛生上の注意より、一時旅人の宿泊を謝断せしに、頃日は同病も全く撲滅に帰したれば、從来の通り施療せらるゝ由。詳細は本日の廣告にあり。

明治28年11月25日(福陵)

●炭坑事業紀念の一大碑 粕屋
郡須恵の里の桜木市次郎氏と云へば、炭山事業熱心の人にして、採掘に就ては多年の経験、其職掌技師をも圧する程なり。されば同氏が植木炭坑の頭領とうりょうを勤めており、同坑の規模年を逐おふて拡張し、隆盛届指の炭山となりしは同氏が尽力の効に依るものとなし、同坑の役員堀川團吉・今泉春吉・同浅次郎の諸氏発起となり、各所の坑主及び坑夫と協議して、

一大紀念碑を建つることに決し、其碑材を福岡鍛冶町の某に依頼せしが、此程竣功せしかば、同村に運搬せしめたる。当日の模様は植木村近村の若手凡そ三百余人悉く同様の法被・手拭にて、勇しく繰り出したりと。尚建碑落成式日も不日行はるゝ筈なれば、其盛況察するに余りあり。

明治28年11月22日(福陵)

●失明の眼病立ろに癒ゆ 那珂郡警固村の月成靜男(五十)氏は過る頃より眼病にかかり、或は諸方の名医に托し、或は神仏に祈願し、ありとあらゆる治療を施せしも、些しの効なく、病症益す重りて、遂に去る二十六年の秋、両眼共に明を失するに至れり。左れば氏も最早治療の望みを絶ち、其偃打捨て置ける折柄、去月十日のこと、或人の勧めにより、眼科医を以て有名なる、柏屋郡須恵村の田原養朴氏の許に至り、治療を受けしに、不思議や数年來の難病、次第に物の黑白を弁ずるに至りしかば、氏の喜び一方ならず。尚ほ同地に滞在すること三十余日にて、今は殆んど全

りと云ふ。

明治29年4月18日(福陵)

●厄祝ひ 柏屋郡須恵村大字植木炭坑の頭梁桜木市三郎氏は、本年四十一歳の厄祝ひととして、此程操人形の興行をなし、近村一般を案内したるが、中入れには見物人に厄餅を撒くなど、非常の賑合なりしと。

明治29年9月26日(福陵)

●刀剣鑑定競技会 好剣家の聞え高き、粕屋郡下須恵村故岡正安永甚次郎氏等発起にて、来る十月四日、光雲神社境内和暢亭に於て、刀剣鑑定の競技会を開設する由なり。

明治30年3月13日(福陵)

●水喧嘩 粕屋郡須恵村大字新原、志免村大字志免・田富の三大字、數ヶ所の溜池仕掛けみず新原より箱井樋を新設し、其費用を志免・田富の両大字へ分担の始末を、新原より請求せしに、其例なればとて、出金出来ずとの分担に關しては、古来負担の慣例なればとて、出金出来ずと

纏まるべくもあらざるより、須恵・志免両村長にて協議中、新原に於ては水路を堰き止め、志免・田富に分水せざりしかば、愈事八ヶ間敷なり、殊とに志免村の如きは、不穏の兆あるより、両村長より郡役所に調停方を申し立て警察署にても警戒する処ありしが、去八日午後五時志免村人民百五十名は、彼の堰き止めたる現場へ押寄せ、該堰土を切崩したるより、新原方にても之を憤りて押し出し、一場の紛争となり、双方とも負傷者十余名を出したる程なりしかば、今程専ら双方に説諭中なりと。

久我記念美術館

4月企画展 4月3日(土)~29日(木) (月 曜 休 館 · 入 場 無 料)

盲者の記憶 ~人体素描三人展~

久我記念館4月の企画展は「盲者の記憶～人体素描三人展～」を開催します。

鉛筆・コンテ・水彩などによる人体素描(約150点)や、ドローイングコラボレーションなどを展示します。

この企画展を開催するにあたり、3人の作家の方からメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

“デッサンをする時、世界は 姿を一変し
新しいものに 変貌します。
人体を とおしてくり返される
新しい 出会いを 感じて
いただければ 幸いです。”



〔作　家〕	
森　　夏　子	1971年生まれ
梅　野　恒　子	1946年生まれ
黒　岩　裕美子	1954年生まれ

●連絡先 0940-36-3751(黒岩)

3月の企画展

3月9日(火)から28日(日)まで谷口路子展を開催します。